

1 中期学校経営方針

(1) 中期取組目標

中期取組目標	
<p>○《安心》《つながり》を大切にし、児童が自分の思いや願いを実現させることができる学校をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自己有用感をもって安心して自分らしさを発揮できるよう、チームで一人ひとりをていねいにみとり支援します。 ・防犯・防災や、児童の安全を守る視点から危機管理体制を整えるとともに、児童の安全に対する意識を高めます。 ・思考力、表現力の育成に力を入れ、「話し合い活動」など児童同士がつながり、深め合う学習を大切にします。 ・児童が自らの成長を自覚しながら規範意識を高めていくことができるよう、異学年での交流機会を多く設定します。 ・保護者と学校とがより密接につながり、楽しく協働しながら子どもを育てていけるようなシステムづくりを進めます。 	

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		①「スマフレ」の活動を充実させ、遊びの交流や集会等を通して異学年とのかかわりを深める。 ②気持ちのよいあいさつや協力し合う態度を大切にし、児童がよりよい行動を選択し実践できるように、給食や掃除、休み時間の関わりなどの様々な機会に声をかけ支援していく。
担当	人権児童指導委員会	

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」に関わる課題）

基本的な生活習慣が身に付き、大人の指示があれば判断や行動ができる子どもたちではあるが、人とのかかわりをはじめ、成長過程で欠かせない様々な体験が十分ではないためか、自分から思いを発信したり、自分で判断して実行したりすることは得意ではない子どもたちが多い。また、自ら人間関係の諸問題を解決し、協調して生活していく力も十分ではない傾向が見られる。

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

【道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育（必須項目）

- ・重点研究の主題を「自分も友達も大切にする子の育成」とし、道徳科の授業を中心に研究に取り組む。他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むために、一人ひとりが道徳的な課題を自分自身の問題としてとらえ、向き合う授業づくりと、多様な考えにふれ、関心をもったり違いを認めたりする中で、相手を理解する気持ちの高まりにつながる伝え合いや話し合いの時間の充実を大切にする。
- ・全学級において道徳の時間の授業を、年間1回以上公開する。
- ・学校だより等において、道徳教育の大切さについて家庭や地域に発信し、意識の啓発を図ると共に、連携して子どもを育む。

【児童同士のかかわりの充実】

- ・「児童会活動」「クラブ活動」「スマフレ活動（異学年交流）」を通して、異年齢集団の中での役割体験をし、人間関係を築き、自己を生かす能力を伸長させる。